

もも・ネクタリン特報 号外

2019. 6. 3
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会



せん孔細菌病は、降雨とともに果実への感染が広がります。
梅雨期に入る前に再度、病斑の除去を徹底して下さい。

☆ せん孔病発生園は、下記を参考に被害を最小限に抑えましょう ☆

① 春型枝病斑、被害葉（葉病斑）を除去する

* 枝病斑、被害葉から周囲へ感染拡大しますので、病斑を切除し、菌密度を最小限に抑えて下さい。



被害葉（葉病斑）

赤褐色の斑点を生じ、
後にせん孔。（葉に穴が空く）

春型枝病斑

紫褐色。陥没。亀裂を生じる。
葉病斑の周辺に散見。

② 薬剤散布は、樹全体に十分かかる量を散布する

* 樹全体に薬剤がかかる程度の風圧で、丁寧な散布を行なって下さい。

③ 袋掛けを実施する（降雨による果実感染を防止する）

* 果実感染防止のため、袋掛け前の薬剤散布後、なるべく早く袋掛けを行なって下さい。ただし、黄金桃・ネクタリン等で7月に生理落果が発生する品種は、着果量をやや多めに残して袋掛けを行なって下さい。



☆☆ **せん孔細菌病「春型枝病斑」の園内点検、除去指導におじゃまします** ☆☆



「毎年、せん孔病が多発する」「近年、発生が増えてきた」「枝病斑を切っているのに被害が多い」「枝病斑がどれか分からない」「発生は少ないけど不安」etc、、、

園芸課担当にご相談下さい。せん孔病枝病斑の園内点検、除去方法について直接園地で説明させていただきます。（せん孔病以外の内容もご相談下さい）

園芸課 電話 23-3933
担当 金井：携帯 090-1867-2510
原沢：携帯 070-2230-8898